

腹部超音波検査

所見	所見説明
脂肪肝	肝細胞に脂肪が沈着した状態。飲酒や肥満、高脂血症が原因のことが多く、肝機能障害を伴うものは徐々に慢性肝炎に移行していく恐れがあります。
肝血管腫	良性の腫瘍で、毛細血管が集まってできたもの。小さいものは問題ありませんが、初めて発見されたときや大きさに変化が見られる場合は精密検査が必要です。
のう胞	血液や浸出液などの液体成分が溜まった袋状のもの。肝臓や腎臓、膵臓など身体の様々な部位にできます。基本的に良性の場合が多く放置して問題ありませんが、大きくなったり数が増えたりすると臓器を圧迫したり、臓器の機能が落ちることもあるので経過観察が必要です。
胆嚢ポリープ	胆嚢の粘膜が局所的に隆起した状態。ほとんどがコレステロールの塊で自覚症状がありませんが、定期的に大きさを確認する必要があります。1cm以上の場合は、精密検査が必要です。
胆嚢結石	胆嚢内に石状のものが形成されている状態。石の成分は、コレステロール・カルシウムなどです。大半は無症状で定期的な検査でよいですが、腹痛や黄疸などの症状がある場合は早急に受診が必要です。
腎結石・腎石灰化	腎盂・腎杯内に結石がある場合は自覚症状に乏しいことが多く、健診で尿潜血を指摘され精密検査で初めて発見されることもあります。腎盂・腎杯の位置にきらきらと白く見える高エコー像とアコースティックシャドウ(音響陰影)として写ります。腎盂腎炎や水腎症などを合併することもありますので、定期的な検査が必要です。
尿路結石	石のある場所により、尿管結石、膀胱結石、尿道結石に分類されます。腹痛・腰背部痛・側腹部痛、血尿などの自覚症状がある場合は早急に受診が必要です。
脾臓腫大	脾臓が大きく腫れた状態。肝機能異常や血液疾患などが疑われることがありますので、定期的な経過観察や血液検査が必要です。